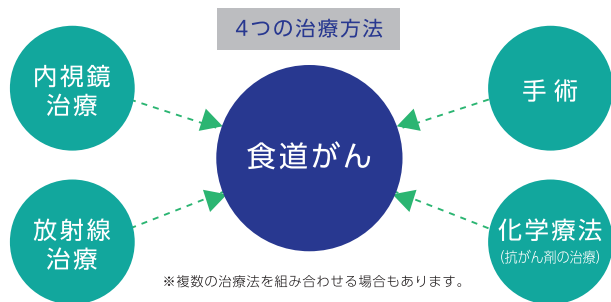


進展度と全身状態から治療法を決定

食道がんの治療法を決めたり、また治療によりどの程度治る可能性があるかを推定したりする場合、病気の進行の程度をあらゆる分類法、つまり進行度分類を使用します。深達度、リンパ節転移、他の臓器の転移の程度にしたがって病期を決定します。そして、各種検査の結果を総合的に評価して、がんの進展度と全身状態から治療法を決めます。

治療法は大きく分けて4つ

食道がんの治療には大きく分けて、4つの治療法があります。内視鏡治療、手術、放射線治療と化学療法(抗がん剤の治療)です。ある程度進行したがんでは、これらの治療のいくつかを組み合わせた“集学的治療”も行われます。



最も一般的な治療法は手術

手術は身体からがんを切り取ってしまう方法で、食道がんに対する現在最も一般的な治療法です。手術ではがんを含め食道を切除します。同時にリンパ節を含む周囲の組織を切除します(リンパ節郭清)。食道を切除した後は、食物の通る新しい道を再建します。

放射線治療と抗がん剤治療

放射線療法は、手術と同様に限られた範囲のみを治療できる“局所治療”ですが、機能や形態を温存することをめざした治療です。最近、放射線療法と抗がん剤治療を同時に行う方が放射線療法だけを行うより効果があることがわかってきました。放射線療法に抗がん剤治療を加えることで、手術をしなくても治る患者さんが増えたという報告もあります。

内視鏡を使った治療

食道壁の粘膜層にとどまりリンパ節転移のない食道がんに対しては、内視鏡的粘膜切除術(EMR)や内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)といった、粘膜にとどまったがんを内視鏡を用いて食道の内側から切り取る治療法も可能です。